第75回指定都市学校保健協議会

課題別協議会　報告

第２分科会　「保健管理」

提言１

成長曲線を用いた学校健診では、学校現場・教育委員会と医療機関の連携が不可欠である

新潟市民病院小児科　医師　阿部　裕樹

平成28年度より医科では成長曲線を活用した健康診断が行われている。しかし、全国の学校に配布された自動抽出プログラムでは、非常に多く成長の異常が抽出されてしまう。そのため検討委員会を発足し、新潟市基準を作成、適用したところ経過観察と受診勧奨の振り分けがスムーズになり、判定に関して学校医、養護教諭の負担を軽減することができた。

提言２

「いのちの授業」を通して見えてきたもの　～児童と家庭・地域をつなぐ役割と保健管理～

堺市立三宝小学校　保健主事　大阿見　和来

「いのちの誕生」「第二次性徴」「性について」などを主な内容とする「いのちの授業」を実践している。健康観察や出席状況、アンケートなどを踏まえて、心身の状態を把握し指導へ生かしている。「生きているだけで100点満点」という言葉でありのままの自分を肯定し、存在そのものに価値があることをメッセージとして伝えている。

提言３

保健室での実態把握を基にした「つながる」保健管理　～目の健康を守る活動を例に～

名古屋市立老松小学校　養護教諭　照井　幸代

近年、子どもの視力低下が問題視されているが、原因の一つにICT機器（タブレット端末、スマートフォン、ゲーム機、テレビなどの液晶画面を持つ電子機器）の長時間使用が挙げられる。正しく使用できる環境を整え、また子ども自身が実践できるように、保健管理と保健教育が両輪となり目の健康を守る活動を行っている。

提言４

やさしく・強く・しなやかな　いずみっこを育む　包括的性教育

神戸市立泉台小学校　教諭　　　池内　聡史

教諭　　　坂井　貴哉

養護教諭　北野　智美

包括的性教育とは、生徒が性生活において適切で健康的な選択をするための知識、態度、技能、価値観を身につけることを目的としたカリキュラムに基づく性教育の指導法である。性に関する知識だけでなく、ジェンダー平等や性の多様性という人権尊重に基づいた教育を家庭と連携して進めている。

提言５

自己の未来を切り拓く勝馬っ子の育成
～よく動き、よく遊び、元気いっぱいプロフェクト～

福岡市立勝馬小学校　養護教諭　田中実乃里

自分の体について考え、また体力づくりに取り組むことは、身体的な力の向上のみならず、意欲、気力、ストレスへの抵抗力といった精神面の充実につながる。外で体を動かす機会が減っている現代において、生涯健康で活力のある生活を送るためには、基盤となる体づくりの大切さに気付き、自ら実践する子どもたちに育てることは重要である。

（辻村　祐一　記）